

# 頭

三年 画数 16  
筆順 豆 頭 頭  
オン トウ・ト・ス  
クン あたま・かしら

成り立ち



「あたま」のかたちをあらわし、「あたま」のいみにつかう「眞」と、「豆（漢音トウ、呉音ズ）」とをくみあわせてつくった字です。「豆つぶのようなかたちをした「あたま」といういみをあらわした字です。

「頭」は、からだのいちばん上にあり、いちばんたいせつなはたらきをするとかんがえられましたので、「いちばんえらい地位」をあらわすのにつかわれます。また、「いちばんはじめ」といういみにもつかわれます。

「あたま」の「たま」は「球」の意味であらう。頭の「豆」と同じ意味の構成と考えられる。

使い方

▽ぼくは、頭のいい人になりたいとおもいます。「よくべんきょうして、よくあそぶと、頭がよくなるよ」と、おとうさんはいます。だから、ぼくは、まいにち、いっしょうけんめいべんきょうして、べんきょうがおわると、ともだちとあそびます。ほんとうのことをいうと、べんきょうはあまりすきではありません。でも、おもしろいな、とおもうときもあります。ほんとうに頭がよくなると、いいな、とおもいます。

▽「お頭、たびびとがやってきましたよ」と、山ぞくの子分がいました。山ぞくの頭は、「みんな、かくれる。まちぶせだ」と、太くががんびくようなこえで、めいれいしました。

熟語例

▽頭痛（頭の痛み。頭が痛いこと。それで、「心配する」といういみにもつかわれます。）

▽先頭（いちばん先。「先頭をきって走る」などといいますが。）

▽頭領（いちばんえらい人。頭。「二国の頭領になる」など）

# 同

三年 画数 6  
筆順 口 冂 冂 同  
オン ドウ  
クン おなじ

成り立ち



ふたが「み」をすっぽりとおおいかくすような「うつわ」のかたちをあらわした字です。

「ふた」と「み」とは、かたちが「おなじ」なので、「おなじ」といういみをあらわしたものです。

「合」とまったくおなじしゆしの字で、どちらも「かたちが「おなじ」で、ぴったりと「あう」こと」をあらわしていますが、「同」は「おなじ」につかい、「合」は「あう」といういみにつかうことになりました。

使い方

▽ぼくは、いもうとと同時に、学校にきました。▽ぼくと正男は、ふたごのきょうだいです。かおもかたちも、そっくり同じです。ふくやもちものも、たいがい同じです。二人はいつも、いっしょです。

▽先生が「これと同じ字をさがしてごらん」と、おっしやだったので、見てみると、カードには「犬」という字がかいてありました。ぼくは本を見ても、たくさん字があり、その中から「犬」という字をみつけない。「あつた！これが同じ字です。」

熟語例

▽おかあさん、ぼくの同級生の青木くんだよ。

▽同時（同じ時。いっしょ。いちどき）

▽同級生（級々クラスが同じ生徒。クラスが同じともだちのことです。）

▽同情（ひとのくるしみをじぶんのことのように、かわいそうにおもうこと。感情を同じくすること、といってもいいでしょう。）